

コンビネーション360号

負けを怖れない

函館チェスサークル・インターネット通信

2017年7月14日発行

oooooooooooooooooooooooooooooooooooo

函館サマー・チェス大会特集 (2)

oooooooooooooooooooooooooooooooooooo



函館サマー・チェス大会より

前号のつづき。

oooooooooooooooooooooooooooooooooooo

レクチャー：負けを怖れない

oooooooooooooooooooooooooooooooooooo

誰かひとりではなく、全員に言いたいことがあります。それは「負けを怖れない」ということ。

強い人とはやらない、弱い相手を選ぶ、これでは永久にチェスが強くなりませんし、いつかはチェスがいやになるでしょう。

負けても大会に出るから強くなる

まず、負けて当たり前という話から。

今大会で勝又君が2勝しました。これはすごいです。チェスに限らず、テニスでも空手でも始めは負けてばかりが普通だからです。すぐに勝てる訳がありません。しかし、我慢して続けることで必ず勝てる日が来ます。

気休めではありません。どんな天才でも始めは負けばかりです。いま世界で活躍中のあるGM、彼は最初の札幌大会で最下位でした。そんな彼も、その後、札幌を出す前には大会で優勝し、人生初のトロフィーを手に入れました。



負けて、くやしくて、泣いている生徒の気持ちは痛いほどわかります。しかし、強くなるにはその結果を乗り越えなければいけません。強い人はみんなそこを乗り越えてきました。泣くのは勝てるのにも思っていたからですか？では、そのくやしさをバネにしてチェスを学んでいきましょう。

大人でも「強くなってから大会に出る」という方がいらっしゃいますが、まちがっています。たとえ負けても大会に出るから強くなるのです！

チェスの棋譜は芸術作品

「チェスは芸術」。次に、チェスの棋譜は芸術作品と似ているというお話を。

絵を描いたとき、うまく描けばたとえ入賞しなくてもうれしいものですよね。チェスも同じ。

勝っても内容が悪いゲームはがっかりで、反対に負けても良い内容なら、ときには勝ちと同じ価値あるゲームになります。特に相手が強いなら、途中有利になっただけでもうれしいものです。



勝ち負けと同じく内容も気にしましょう！

お互い好手連発のゲーム(コンビネーション338号「自慢できる負けゲームがある」が一例)、美しいサクリフェイスや理論的に新しい手を含むゲーム…、勝敗をこえた価値あるゲームがあります。

連敗後の消化試合がチェス史上に残るゲームになる可能性もありますから、公式戦はすべて全力でプレーし、棋譜をしっかりと書き残しましょう。



負けてもチェスが面白いと思えるように

もちろんチェスは勝負です。勝ったらうれしいに決まっています。ところが、チェスを続けていると、不思議なことに負けても負けてもチェスがしたくなる 때가 来ます。「もう絶対しない！」と誓ったはずなのに、…またやりたくなるのです！

そうなったらしめたもの、あなたはりっぱなチェス中毒患者（笑）、きっとチェスがどんどん強くなるでしょう。

チェスにはそんな魅力があります。そうでなかったら 2000 年の間、世界でこんなに普及していません。もともと人間は戦略を練ることが大好きなのです。頭脳を使って先のことを考え、生物界の頂点に立ちました。

このチェス教室では負けてもチェスが面白い、そう思えるようにチェスの本当の魅力伝えていこうと思います。生徒のみなさんもがんばってください。負けを怖れずチェスをしてください。次の函館チェス大会には参加してください！

oooooooooooooooooooooooooooooooo

ハイライト・シーン

oooooooooooooooooooooooooooooooo

内容に勝敗をこえた価値がある。そんな実例が今回の函館サマー・チェス大会にもありました。大会の棋譜からハイライト・シーンを選びましたので、ゲームを鑑賞しながら実戦で応用できる基本を学びましょう。

今週はチェス教室で話をする時間がないと思いますので、それぞれぜひ目を通しておいってください。チェス合宿の教材にするかもしれません。

oooooooooooooooooooooooooooooooo

次の1手 問題

oooooooooooooooooooooooooooooooo

ゲーム1 黒番



3 R 工藤湊之介君の強気な手は？

ゲーム2 黒番



2 R 肝付凱帆君の放った魔法のような妙手を当ててください。

ゲーム3 白番



5 R 高橋雅音君が見せた最短距離の寄せ手順、まるで将棋の藤井4段のようでした。

ここは黒の木村君、しっかり局面がわかっている指し方でした。21... Rxc1! 22.Rxc1 Naxb4 22. Bxb4 Nxb4 と安全に黒を優勢にしました。この後シーソーゲームから途中で木村君が必勝の形を作りましたが、それを康弘さんが大逆転しています。

図4 黒番 5 R (山田明弘—金城康弘)



その康弘さん、優勝のプレッシャーのかかるゲームで白のミスを的確についた手がありました。

15... fxe4! これでポーン・アップ。どうしてなのかわかりますか？

16.Nxe4?? Nxe4 17.Bxe4 Nxd4 18.Bxd4 Bxd4+ ではピース・ダウン。実戦では泣く泣く 16.Be2 でした。

このゲーム、内容的には康弘さんが勝っていました。白は勝ちましたが、とてもじゃないが喜べないゲームだったのです。

図5 黒番 5 R (白は小林橙太君)



この局面、小林君のセンスが光るゲームでした。15.axb3 が面白い反応。Bxb4 には Rxa8 が見えています。この戦術がチャンス呼びます。15... Nc6? に対して、16. dxc5? の代わりに 15... Rxa6!

16.Rxa6 dxc5 としていれば形勢不明でした。

小林君はすぐにそのレベルになることでしょう。

図6 白番 5 R (白は勝又海君)



最後にこの局面、11.d4 としたところですが、白番の勝又君がセンターをおさえた感覚が見事でした。格上に勝てたことは、まぐれではないかもしれません。

チェス合宿について

8月6日、7日(教室配布時の5日、6日はミスでした)、ネイパルでチェス合宿を予定しています。くわしくは以下のとおり。

